

東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2025

「伸びやかに生きる ～大学は知の宝庫～」

第6回 11/25 (火) 13:30～15:00 報告

コミュニケーションツールとしての「アート」を楽しもう！

講師 中島 法晃 (本学講師)

於：図書館中小セミナー室

◆◆◆◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*◆◆◆◆*

2025年度第6回東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座が11月25日火曜日13時30分より30余名の受講生を迎えて本学図書館中小セミナー室にて開催されました。

講座では「コミュニケーションツールとしての「アート」を楽しもう！」と題しまして人間関係学部子ども発達学科講師の中島法晃先生による講演並びにワークショップが開催されました。

中島先生は本学にて講師をされる傍ら美術家として、東海地方を拠点に画廊等で毎年個展を開く浄土真宗本願寺派のご住職でもあります。また、昨年8月にはスリランカのケラニヤ大学においてご講演および書道ワークショップを開催されるなど、国内外で幅広くご活躍されています。

講演では冒頭、自己紹介を兼ねて2019年から始まった愛知県豊田市にあります県営保見団地での活動「保見アートプロジェクト」についてご紹介していただきました。保見団地には、自動車関連の企業等で働くために来日した多くの外国人とそのご家族が日本人と共に住んでおられ、民族や国籍、言語、文化、習慣等の違いにより、ゴミの投棄方法や落書きなど数多くの問題を抱えていました。そのような状況の中、NPO法人トルシーダを中心に多くのアーティストも加わり、子供たちのために、落書きを消して絵を描き、アートの力で、明るく希望のある街を創っていこうとする活動が始まりました。そして異なった文化や習慣を理解しあい、多文化共生（2006年総務省による多文化共生の推進に関する研究会報告書によると、地域による多文化共生とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」と定義）を目指そうと始めたこのプロジェクトに中島先生ご自身も深く関わられたご経験をもとに、アートを通して徐々に街が変わっていく様子が紹介されました。今回アートを通した実践活動の一つとして、「保見アートプロジェクト」を紹介していただきましたが、受講生の皆様も真剣に耳を傾けておられ、テーマになっているコミュニケーションツールとしてのアートが持つ不思議な力の一端を垣間見ることが出来たのではないのでしょうか。

続いて「国旗」というモチーフを通して、自分の人生や価値観を可視化するというワークショップが開催されました。それぞれが描く自分だけの国旗をデザインし描く事により生きてきた証やこれからの希望を表現しようとするものです。

最初に比較的馴染みのある国旗について、その国旗のデザインが持つ意味や、色や形がも

ともと持っている意味等について記したプリントが国旗を描く際の参考にと配布されました。

ワークショップが始まりますと、受講生の皆様は早速部屋にあらかじめ用意してあった色鉛筆やクレヨン、マジック等を思い思いに選択し、それぞれが思い描く国旗の作成に取り掛かりました。

受講生全員が国旗をある程度描き終えた頃、中島先生より、4～6名程度ずつ座っていたテーブル毎に自分が描いた国旗について、国旗に込める思い等を自由に語りあって欲しいとの提案があり、会場は受講生同士、講師も含めて交流の場となりました。

すでに今年度6回目の開催という事もあり、顔なじみの方も多いようですが、自分の描いた国旗に込める想いを語り合う事で更にお互いを知るきっかけにもなったのではないのでしょうか。

講座に参加してみて、受講生の皆様が真剣にそして楽しくワークショップに取り組み、その後行われた受講生同士によるプレゼンを聞き、成果物として描かれた国旗への熱い思いを感じ取ることが出来ました。

今回、講演に続くワークショップという事で、開始から15時の終了時間まで瞬く間に過ぎる講座となりましたが、目的でもあったコミュニケーションツールとしての「アート」を楽しもう！を参加者全員が実践できたのではないかと思います。

【講座の様子】

